

■第4回犬山市総合計画審議会における委員からの意見・提案【Aグループ】

資料1

番号	項目	意見・提案	対応	委員氏名	備考
1	全体協議 個別施策（ICT の活用）	ICTについてはこれまで議論はなかった。市として何がやりたいのか不明。 莫大な費用を投下したアプリ開発は時代遅れ。	もともとは、「電子自治体の推進」という名称であったが現代の状況に相応しくないため変更したものです。スマートフォンなどの普及により、ICTを利用する生活は日常のものになっています。こうしたなか、市民サービス向上の観点、業務改善の観点から、アプリ、SNSなどを活かし、効果的な情報発信も含めた事業展開は現代において必須であると考えているため、市としてこうした取組みは進めていきたいと考えています。ただし、費用を莫大にかけるのではなく、必要な事業費を適正に定め、展開していきたいと考えています。	N	
2	土地利用	土地利用図について、城東地区の賛同が得られないのではないかと。せめて駅周辺だけでも何か表示できないか。施策と整合性がとれた図になっていないのではないかと。	市域の西部のみを重要視しているのではなく、また市東部地域をないがしろにするものでもありません。むしろ、「多様な暮らしができる・提供する」、という意味においては、都会に近いのに自然を身近に感じることができるエリアとして、犬山市の魅力となり得る地域であると考えています。ただ、図の表現として分かりにくいというご指摘はもっともですので、修正します。	N	
3	土地利用	普通、鉄道に沿って軸をつくる。広見線も犬山にとって重要ではないかと。鉄道は財産であり、新たに作ることは不可能なので重要。	上記にも記していますが、東部地域は自然と人が調和する魅力的なエリアです。ご指摘のとおり、この地域を横断する名鉄広見線の2駅については、自然の豊かさを享受するための玄関口として非常に有用であると捉え、この地域の拠点として位置付けていきます。	C	
4	土地利用	豊かさの向上とは、都市全体の活力であると同時に、高齢者などの安全安心、コミュニティベースの生活の視点もある。山間部でもコンパクトな交流拠点、たとえば「まちづくり拠点」といった表示はあるのではないかと。	豊かさ向上軸というのは、当該地域のみで豊かさを向上させるのではなく、この地区における道路整備等を重点的に実施することにより、市域全体の利便性向上などにより市全体の豊かさの向上を目指すものであり、ご指摘のとおりです。また、市域東部の平坦地と丘陵地との中間に位置する地域は、里山を間近に感じるエリアであり、犬山市の魅力的な特徴であると認識しています。こうした地域は犬山市の強みとなり得るため、ここに住む人の生活を守る、という意図をこの計画の中で明確にしていきます。このため、東部地域の小学校のある集落や鉄道駅周辺を拠点として位置付けていきます。拠点の名称についてはふさわしいものを検討します。	A	
5	土地利用	文字でいろいろ書くよりも一言でわかりやすく。この図では南北軸でがんがん開発するように見えてしまう。	南北軸を軸として明示しているのは、主要な幹線道路の整備を促進し、道路沿いに賑わいを創出することで、市域全体の豊かさを高めていこうとする目的に設定しています。このため、上記にも記しましたが、軸内のみが豊かになるのではなく、向上軸での利便性を高めることにより、市域全体の豊かさを向上させるという意味で、当初の計画で設定しています。ただし、委員の皆さんの意見を踏まえ、意図しない解釈を与えてしまうことは避けたいと考えますので、豊かさ向上軸の名称を変更します。	N	
6	土地利用	これまでの議論を踏まえると、集落再生拠点といった呼び方も。	委員のご指摘を踏まえ、市東部地域の小学校のある集落及び鉄道駅を拠点として位置づけることとし、より相応しい名称に変更します。	A	
7	土地利用	富山など、コンパクトシティを目指しているが、集約する側でなく、出ていかれるほうの地域のこともかんがえなければならないと思う。豊かさ向上軸という呼び名に問題はなかったか。	豊かさ向上軸という表現は、上述のとおり、読む人に様々な解釈を与えてしまうため、変更することとします。	C	

番号	項目	意見・提案	対応	委員氏名	備考
8	土地利用	田中市長時代、コンパクトにどんどん集約していく方向だったように思うが、今は違うのではないか。	コンパクト&ネットワークというのは、国が掲げている政策であり、人口減少時代において、施策の方向性としては本市も同じ視点を持ち合わせていく必要があるという認識です。ただし、今回の計画改訂においては、市東部の小規模集落などは本市の魅力になり得るものとして、そこでの暮らしを大切に守ることを位置付け、市中心部の都市的魅力を高めていこうとする地域とをネットワークで結ぶという考え方が重要であると考えています。	N	
9	土地利用	政策的にはそうであっても、周辺地域への思いもある。その思いが伝わる書き方になっていない。	ご指摘のとおりです。文章表現と図が整合するよう、工夫します。また、見せ方・伝え方を心掛け、レイアウトも含め、最終的な冊子の段階ではさらにわかりやすい表現を心掛けます。	N	
10	土地利用	犬山は市民活動が盛んで、外から人を呼んでくる力があると思う。周辺地域であっても駅はそのゲートウェイになるはず。	ご指摘のとおりであり、城東地区の2駅は里山に囲まれた豊かなくらしを実現する地域への玄関口となり得ると考え、地域の拠点として位置付けます。	A	
11	土地利用	駅設置の検討が書きすぎ、ということであればたとえば交通結節点の形成という表現でもいい。名鉄は市街化とセットであれば納得すると思うが。	駅については本市にとって必要性の有無も含め、今、検討することが重要であると考えています。また、設置の検討にあたって、計画に市の考え方として明記しておくことで、鉄道会社等が協議に応じ対応してくださるのではないかと考えています。	C	
12	個別施策(ICTの活用)	ICTについては、コンテンツが重要ということ。流行に流されておかしなアプリ開発にならないように。	コンテンツが重要であるというのは強く認識しています。媒体を購入して与えるだけでは効果が低いというご指摘も同じです。ただし、アプリケーションの導入も含め(コンテンツが充実していることが重要ですが)、市民サービス向上、業務改善のためにはICT活用は意義があると考えています。	N	
13	施策の全体像	重点施策のタイトルについては、個別施策をまず挙げて、その最大公約数でテーマをまとめた、という順番のような気がするが、それだとしてもテーマがぼやけてしまう。多様な暮らしというのもあまりピンとこないが。	タイトルについての考え方はご指摘のとおりです。よりわかりやすいタイトルとなるよう、審議会でのさまざまなご提案を踏まえ、工夫して設定します。	N	
14	個別施策(犬山駅前道路整備)	3-1の資料の白い施策はあまり重要でないということか。夢のある計画のなかで、道路整備は永遠の課題と思う。犬山駅から本町へ向かう道路は歩道が狭く危険だが書かれていない。観光だけでなく生活道路としても重要であるし、記述すべきではないか。他の都市計画道路よりもウェイトが高いのではないか。	施策の全体像は、市民のみなさんと行政がともに取組むべき全ての施策を網羅的に表示しています。ここに表した113の施策全てを総合的にしっかりと推進することがまず大切なことであることは言うまでもありません。また、ご指摘のあった犬山駅から本町交差点に至る道路の課題については本市としても認識しており、会議の中でご案内することができませんでしたが、個別施策291「駅周辺地区の整備」に場所も含めて記載しています。	F	
15	個別施策(犬山駅前道路整備)	282ページの施策のなかにそれに関連する事業が見当たらない。そこに書いていないと対応ができない。	会議でしっかり説明することができず失礼しました。上記のとおり個別施策291「駅周辺地区の整備」において表記しています。なお、本路線は県道であり、今後も県に対して要望していきながら、課題の解決に努めます。	A	
16	施策の全体像	重点施策のキーワードとして、1は「にぎわいあるまちづくり」2は「みんな」「だれも」「いきいき」3は「多様」もあるが「安全」も重要ではないか。	重点施策のタイトルは非常に難しく感じっていますが、委員のご提案を踏まえ、分かりやすい表現を心がけます。定住促進の項目で「多様」を用いたいと考えています。	C	
17	施策の全体像	1は率直に「もうけましょう」3は「安全」	産業の活性化のタイトルは、「もうけましょう」というフレーズの持つ意味を踏まえ設定します。	O	

番号	項目	意見・提案	対応	委員氏名	備考
18	施策の全体像	すべてひとつの言葉でとなると難しい。どの案もインパクトはあまり変わらない印象だ。	ご指摘のとおり、印象として、インパクトがあり、ずっと心に残る表現というのは非常に難しいと考えています。一方で行政の計画ですので、インパクトの強すぎる表現も採用しずらく、難しいなあと感じています。とは言え、委員のみなさんの提案を踏まえ、できるだけ親しみがあり、かつ今後6年間に進むべき方向性を表したタイトルをとなるよう、心がけます。また、今後、計画書そのものではありませんが、シティプロモーション活動を展開するなかで、あらゆる媒体に載せて実施して行く際には、さらに柔らかい表現を用いていきたいと考えております。	L	
19	施策の全体像	1は「かせげるまち」2は「まちづくりはひとづくり」3は「大いなる田舎 犬山」田舎であることに胸を張れ、という意味がある。	いただいたご提案を参考にさせていただきます。ありがとうございます。なお、産業の活性化での「かせげるまち」というご提案を踏まえ、検討します。	N	
20	施策の全体像	3「選ばれる」というのは確かにいい言葉と思う。	選ばれるという表現は非常にわかりやすく、人口減少時代において社会移動を増加させることは重要であるため、良い表現だと認識しています。一方で、この言葉は行政が主体の中心となるという読み取り方になる可能性があり、行政と市民がともに創り上げていく、という意味合いを深めるためには、「できるまち」を用いていきたいと考えており、今後、多様性を提供できるまちになっていきたいと考えています。	C	
21	施策の全体像	重点施策の並びについて。めざすまちづくりの理念がまずあってのことなので、それを活かすべきではないか。2、1、3の順ではないだろうか。	ご指摘のとおりであり、重点施策の並び順を変更します。	A	

■第4回犬山市総合計画審議会における委員からの意見・提案【Bグループ】

番号	項目	意見・提案	対応	委員氏名	備考
1	土地利用	駅の設置について、かなり踏み込んで書かれているが、実際にやるとなると20億ぐらいかかるとも言われている。総合計画に位置付けたものの、全くダメだった場合には、審議会で何を議論していたのかとなる。検証した上で記載すべきでは？	改訂版における土地利用の考え方について、これまでは実施する箇所、見込みのある箇所について生活交流ゾーンの中に入れるなど、実施する想定のあるところを色付けしていました。今回は考え方を替え、実施の見込みが無くても、可能性があるところについては、あらかじめ色塗りをするという考え方に立っています。このため、駅設置についても可能性を閉ざさないということを書いております。これまでは駅設置の検討そのものが無い状態。今後の6年間で、駅設置の必要性も含めて、検討をするというものです。ただし、事業費、利用者等、実施に際して懸念されることも多く想像されますので、係る費用と効果、必要性については十分検討する必要があると考えております。	A	
2	土地利用	橋爪・五郎丸地区を開発するには、下水道の整備などが必要になるが、誰が負担するのか。	今回は、民間の力を導入する可能性を閉ざさないために、土地利用を見直しています。このため、今後、どのような規模、内容、そして手法等で事業展開されてくかについては、しっかりとした検討を要するものと考えております。また、当然のことながら何が出来てもいいという訳ではなく、犬山の特性を活かした、犬山らしい拠点を目指していきたいと考えております。	A	
3	土地利用	基本構想は概略のみをザックリ書いて、基本計画の方で詳しく記載したらどうか。	総合計画における土地利用はご指摘のとおり、大まかな方向性を示すものとして、図を簡略化し、ゾーニングもざっくりとした内容としました。民間活用を含め、土地利用の可能性を閉ざさないという考え方を持っています。また、土地利用の詳細については、現在併行して見直し作業を実施している都市計画マスタープランにおいて地域別の詳細について検討をすすめています。	E	
4	交流拠点	「“新たな”交流拠点」でなく「交流拠点」でよいのでは？	重点施策で示した「新たな交流拠点」とは、橋爪五郎丸地区及び周辺において、都市・交流拠点の形成を目指そうというものであり、「新たな」という表記をしています。	H	
5	市民活動	「地域の交流の場」という表現が抽象的である。ハードのことなのか、ソフトのことなのか。明確にした方がよい。	地域における交流の拠点、交流の場としては、基本的にハード整備として、新しい施設をどんどん設置していくという想定はしておりません。現在既にある施設に、あらたな機能や複数の機能を持たせたりする（多機能化する）ことで、様々な世代の人が集い、交流するような場づくりをイメージしています。また、橋爪五郎丸地区及び周辺における交流拠点は民間の力も活かした賑わいや交流の場づくりを想定しています。	B	
6	市民活動	「コミュニティ意識の啓発」というのは、一般の人にはわかりにくいのでは？	ご指摘のとおりです。計画書全体に言えることですが、表現として固く、わかりやすさが十分でないかも知れません。地域を地域の人が支えていこうとする意識を高めることを広めていきたいとの思いですが、伝わりにくいというご指摘はもっともです。今後、市民向け媒体として概要版などを作成しますが、その際に留意し、より平易でわかりやすい表現にしていきます。	B	
7	市民活動	コミュニティをどのように再構築するかが重要。地縁組織としてのコミュニティのことだけが書かれており、地縁組織の活性化ももちろん大切だが、共通の課題を基にした機能集団（アソシエーション）と地縁組織が一緒になって形成するコミュニティというように、コミュニティの考え方をもう少し広く捉えては？	ご指摘の内容としては非常に重要であり、地縁的な町内会、小学校区単位のコミュニティ推進協議会等の活動は地域を支える存在として非常に重要であるとともに、その他にも、目的別の機能組織が地域で活躍できるような幅広い市民活動を支援していく必要があると考えています。今回、施策63「コミュニティ活動の支援」においてNPOの表記を加えました。また、施策62「市民活動の支援」を「市民活動の支援(多様な主体の連携)」と変更し、市民活動に拡がりが得られるような展開を持たせました。	B	

番号	項目	意見・提案	対応	委員氏名	備考
8	市民活動	自分たちの世代の感覚では、地縁的なコミュニティからアソシエーションにシフトして行っている。	ご意見の内容は非常に興味深く、若い世代の方は地縁的なつながりに加え、機能組織的な集まりでの活動も多くあるものと想像します。若い世代がまちづくりに参画することも重要であると認識していることから、機能的組織がよりまちづくりに関わりを持てるよう、施策63「コミュニティ活動の支援」の重点事業内に、NPOなどの表記を加えました。	K	
9	市民活動	協働には、①「行政のPDCAに市民が参加する」、②「NPO、コミュニティ、企業など様々な主体が協働して目指す姿を実現する」、③「地縁組織やNPO、子供会、町内会、女性などが連携してコミュニティを形成する」という3つのことが重要。①番が一般的に協働と言われているが、②が本当の意味での協働。 施策061, 062, 063でそれぞれ①、②、③のことについて書かれてはいるので、書き方をもう少し工夫してほしい。 “総力”パイロットプロジェクトにNPOも加えた方がよい。	ご指摘のとおり、基本施策「市民協働」における①②③の個別施策はどれも重要であり、それぞれに意義・役割を有していると考えています。その中で、表現、書き方については工夫して記述することを心掛けました。また、総力パイロットプロジェクトの表記にNPOを加えました。	E	
10	市民活動	「地域の交流の場や機会形成の“促進”」という行政が拠点を整備すると捉えられる可能性がある。促進でなく支援とした方が良いのでは？「地域資源を活かした」という言葉も入っているとよい。	ご指摘のとおり、「促進」を「支援」に修正しました。また「地域資源を活かす」という表記については、今ある資源(既存公共施設、民間施設、空き地、空き家、自然、人材など)を活かして、交流や賑わいを創出していきたいと考えています。こうした考えのもとに、施策281「眠る資源の活用(既存ストック活用)」に重点的に表現することとしました。	E	
11	市民活動	重点施策2の「市民活動・起業支援」に関する具体的な施策がない。起業支援をここに入れるのであれば、市民活動としてのコミュニティビジネスが記載されているべき。 もしくは、中小企業支援にソーシャルビジネスが入っているのであれば、起業支援は重点施策1に入れるべき。 窓口も明確にした方がよい。	ソーシャルビジネスについては、施策112「中小商業者の育成」に表記し支援していきます。ここには、地域の課題を地域が解決する市民活動がソーシャルビジネスとして展開されていくことも含まれるという認識です。また、施策062市民活動の支援(多様な主体の連携)の重点事業「市民活動支援事業」において、市民団体等が自立するための団体経営に関する支援を進める」として、「稼ぐ」視点を持ち支援することを明示しました。ただし、ご指摘のとおり産業の活性化・活躍の場づくりのどちらにも含まれる内容であると考え、担当課が連携して支援することが重要であると考えています。	E	
12	観光	「観光地を結ぶ交通体系の整備」に関して、具体的な施策は書き込めないか？	観光地を結ぶ交通体系の整備促進については、「円滑に移動できる環境の充実を図るとしています。また、駐車場の充実を図りながら観光地の渋滞緩和を促進し満足度の向上を図る」と記していますが、具体的な事業についての記述は出来ていません。ただし、移動の不便さを無くしていくことについての重要性については十分認識し、今後6年間で具体的な事業展開を図っていきます。	D	
13	観光	名古屋市との連携については記載されているが、犬山だけに観光客がとどまることは考えにくいので、もう少し広い範囲で他都市との連携について記載した方がよいのでは？	他都市との連携としては木曽川夢空間事業連絡会など記述がありますが、もう少し広域の取組みとして現在、中部圏の都市で連携し実施している、「昇龍道プロジェクト」の記述を追加しました。	D	
14	観光	訪日外国人が増加しているのは、観光客ではなく、就業者や研修生が多い。そういった外国人をターゲットとしたインバウンド施策はないか？	インバウンド対策については、施策132「観光宣伝・情報発信の充実」で海外への情報発信、インバウンド誘致活動、などを記述していますが、更にインターネット環境整備、地元大学生(留学生)との連携による展開などを新たに追記しました。	E	
15	観光	インバウンドの具体的な施策を書いた方がよい。台湾でのプロモーションに力を入れているのであれば、なぜ台湾なのかということを書く。	現在は観光協会による海外での誘致活動を実施しています。複数の国・地域に対してアプローチして活動しているため、「インバウンド誘致活動」という総称で取組みの方向性を表記し、活動の担保としています。	E	

番号	項目	意見・提案	対応	委員氏名	備考
16	観光	留学生との連携についても触れておくべきでは？	上記にも触れましたが、施策132にも「地元大学の留学生との連携」を追記し、連携の強化を方向付けました。	E	
17	シティプロモーション	シティプロモーションが、「重点施策3 定住促進」に入っているが、太宰府市の市民遺産のようにコミュニティがシティプロモーションを担っていくところもあるので、「重点施策2 活躍の場づくり」に入れるべきでは？	シティプロモーションは総合的施策として実施していくものと考えていますので、重点施策で言えば1、2、3のいずれにも該当してきます。また、重点施策3の定住促進も市の施策を総合的に実施していくものです。確かにシティプロモーションは市内に向けての発信と、市外に対する取組みがあり、内向きには特に「活躍の場づくり」に該当しますが、外向けのプロモーションが外れてしまいます。このため、市内外の両方を包含できるという意味で重点事業3に入れています。	K	
18	シティプロモーション	重点事業の「シティプロモーション強化事業」と「動画による魅力発信事業」はレベル感が違う。強化事業は動画を包含しており、事業というよりも施策に近いのでは？	ご指摘のとおり、施策と事業のレベル感が違うため、整理することとします。「シティプロモーション強化事業」は、施策の展開方向①に包含されるため、削除します。	D	
19	シティプロモーション	シティプロモーションには、こういった犬山像を目指すのかという大枠が必要。	まさしくご指摘のとおりであり、目指すべき犬山像の大枠を定めていくことが必要であると考えています。総合計画でシティプロモーションの重要性を明記し、方向付けができたところで大枠を設定し、具体的取組みを進めていきたいと思います。	D	